

河内長野市埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ

栄町遺跡
三日市遺跡
三日市北遺跡・三日市宿跡

2002年3月

河内長野市教育委員会

序 文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、豊かな自然に恵まれ、高野街道に代表される和歌山や奈良へ向う街道の要衝として発展してきた街です。この為市内には数多くの文化財が残されています。

この様な河内長野市も大阪市内への通勤圏に位置しているため住宅都市として近年、開発の波が押し寄せて来ています。この開発がもたらす文化財や自然に対する影響も大きいものがあります。特に、地下に眠る埋蔵文化財は開発と直接に結び付く大きな問題です。

この様な状況の中で、遺跡に託されている河内長野の先人達のメッセージである文化遺産を保護・保存し、更には未来の市民へ伝えていく事は、現代に生きる私達の責務であります。河内長野市においては、重要な課題である開発と文化財保護との調和のため、開発に先立ち埋蔵文化財の発掘調査を実施し、その把握に努めています。

本書は発掘調査の成果を収録しています。皆様が先人達のメッセージの一部でもある文化財に対するご理解を深めていただくとともに、文化財の保護・保存・研究するための資料として活用していただければ幸いです。

これらの発掘調査に協力していただきました施主の方々の埋蔵文化財への深いご理解に末尾ながら謝意を表すものです。

平成14年3月

河内長野市教育委員会
教育長 福田弘行

例 言

1. 本報告書は平成13年度文部科学省の国庫補助事業として、河内長野市教育委員会が実施した栄町遺跡（S K C01-1）、三日市遺跡（M I C01-1・2）、三日市北遺跡・三日市宿跡（M I N01-6）の発掘調査報告書である。
2. 調査は、本市教育委員会教育部社会教育課主幹兼文化財保護係長尾谷雅彦、同係鳥羽正剛・太田宏明、同嘱託藤田徹也・福田和浩を担当者として実施した。
3. 調査及び本書の執筆は鳥羽、藤田、福田が行った。編集は松尾和代がこれを補佐した。文責は各文末に記している。
4. 遺構の写真撮影は鳥羽、福田が行い、遺物の写真撮影は中西和子（河内長野市立ふれあい考古館長）が行った。
5. 発掘調査及び内業整理については、下記の方々の参加を得た。（敬称略）
大塚美幸、大西京子、喜多順子、斎田菜穂子、杉本祐子、中村幸子、杵本裕子、笑造加奈子、牟田口京子
6. 発掘調査については下記の方々の協力を得た。記して感謝する。（敬称略）
大塚和矢、澤農梓、芝野富士雄、芝野静子、住川剛、西尾道子、福田喜代一、安間克己、上田睦（藤井寺市教育委員会）、藤井康司（（財）和歌山県埋蔵文化財センター）、和泉大樹（千里赤阪村教育委員会）、岡本茂史（（財）大阪府埋蔵文化財調査研究センター）、株式会社アート、株式会社島田組
7. 本調査については、写真・実測図等の記録及びカラースライドを作成した。また、出土遺物については市教育委員会で保管し、一部は市立ふれあい考古館で展示している。広く一般の方々に利用されることを希望するものである。

凡 例

1. 本報告書に掲載されている標高はT Pを基準としている。
2. 土色については、「新版標準土色帖」1990年度版による。
3. 平面測量基準は国家座標第VI系による5 mメッシュを基に実施したものである。
4. 図中の北は座標北である。
5. 遺構実測図の縮尺率は、1/30・1/60・1/100・1/150とした。
6. 本書の遺構名は下記の略記号を用いた。
S D ……溝 S K ……土坑 S N ……埋桶 S P ……ピット
S Y ……窓状遺構 S X ……落ち込み
7. 遺物実測図の縮尺率は、土器1/4、埴輪1/6を基準に各遺物の状況により、縮尺は変えている。
8. 須恵器・瓦器・瓦質土器・陶磁器の断面は黒塗り、弥生土器・土師器・土師質土器・石器の断面は白抜き、鉄製品の断面は斜線である。
9. 遺物番号と写真図版の番号とは一致する。

目 次

序 文	
例 言	
凡 例	
目 次	
挿図目次	
表 目 次	
図版目次	
第1章 調査の状況	1
第2章 調査の結果	5
第1節 栄町遺跡 (SKC01-1)	(福田) 5
1 概略	5
2 調査の方法	6
3 層序	6
4 遺構と遺物	7
5 まとめ	8
第2節 三日市遺跡 (MIC01-1・2)	(鳥羽・藤田) 9
1 概略	9
2 遺構	9
3 遺物	13
4 まとめ	14
第3節 三日市北遺跡・三日市宿跡 (MIN01-6)	(福田) 15
1 概略	15
2 調査の方法と層序	15
3 遺構と遺物	16
4 まとめ	22

挿 図 目 次

第1図 河内長野市遺跡分布図 (1/40000)	3
栄町遺跡 (SKC01-1)	
第2図 調査区位置図 (1/5000)	5
第3図 調査区土層断面実測図 (1/60)	6
第4図 包含層出土遺物実測図	7
第5図 土層断面柱状図	8

三日市遺跡 (M I C01-1・2)

第6図 調査区位置図 (1/5000)	9
第7図 M I C01-1 調査区上層遺構配置図 (1/60)	9
第8図 S Y 1 遺構実測図 (1/30)	10
第9図 M I C01-1 調査区下層遺構配置図 (1/60)	10
第10図 S X 1 出土遺物実測図 (1)	10
第11図 S X 1 出土遺物実測図 (2)	11
第12図 S X 1 出土遺物実測図 (3)	12
第13図 M I C01-2 調査区遺構配置図 (1/60)	13

三日市北遺跡・三日市宿跡 (M I N01-6)

第14図 調査区位置図 (1/5000)	15
第15図 第1面遺構配置図 (1/150)	16
第16図 S K 1・3~5 出土遺物実測図	18
第17図 S N 2・3 遺構実測図 (1/30)	19
第18図 S N 3 出土遺物実測図	19
第19図 S P 2 出土遺物実測図	20
第20図 第2面遺構配置図 (1/150)	21
第21図 包含層出土遺物実測図	23

表 目 次

第1表 発掘届出件数月別一覧表	1
第2表 主な発掘調査一覧表	1
第3表 河内長野市遺跡地名表	4

図 版 目 次

図版 1 荣町遺跡 (S K C01-1) 調査区全景(東から)、調査区全景(南から)	
図版 2 三日市遺跡 (M I C01-1) 調査区全景(南から)、S Y 1	
図版 3 三日市北遺跡・三日市宿跡 (M I N01-6) 調査区全景(東から)、S K 5	
図版 4 三日市北遺跡・三日市宿跡 (M I N01-6) 調査区全景(西から)、調査区全景(南から)、S N 2	
図版 5 三日市北遺跡・三日市宿跡 (M I N01-6) S N 3、荣町遺跡 (S K C01-1)・包含層 (1~9)	
図版 6 三日市遺跡 (M I C01-1) S X 1 (10~12・13・14・20・27・29)	
図版 7 三日市北遺跡・三日市宿跡 (M I N01-6) S K 3 (48)・S K 4 (41・42・44・46・51)・S K 5 (45)・包含層 (58~69)	

第1章 調査の状況

平成13年の文化財保護法57条の2及び3の発掘届及び発掘通知の件数は、総数113件、そのうち発掘届97件、発掘通知16件である。また、今年も新しい遺跡が発見され、新規発見届及び通知は2件提出されている。

今年の発掘届にみられる原因者の状況は、大規模な開発よりも個人住宅の新築及び改築が大部分を占めている。

第1表 発掘届出件数月別一覧表(平成13年1月~12月)

	平成12年度			平成13年度									総計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
発掘届(57条の2)	10	7	12	8	14	8	3	14	8	1	4	8	97
発掘通知(57条の3)			1			3	4	5	1	1	1		16
発見届(57条の5)					1								1
発見通知(57条の6)											1		1

第2表 主な発掘調査一覧表(平成13年1月~12月)

遺跡名 調査名	調査期間	申請者	申請面積	用途	種別	区分	備考
鳥居子形城跡 EBS00-1	H13.1.10	河内長野ガス株式会社	192.00m ²	ガス管理設立会			遺構・遺物なし
三日市遺跡 M1C00-5	H13.1.13	個人	268.70m ²	専用住宅	調査	原因者	遺構・遺物なし
三日市遺跡 M1C00-4	H13.1.25 ~2.22	個人	216.04m ²	専用住宅	調査	国庫	中世の溝を検出。平安時代の黒色土器が出土。
長池窯跡群 N1K00-1	H13.1.30	個人	152.26m ²	専用住宅	立会		遺構・遺物なし
三日市北遺跡 M1N00-1	H13.2.1 ~3.30	河内長野市	1600.00m ²	駅前市街地再開発	調査	原因者	弥生時代の土坑、溝、堅穴住居を検出。弥生土器、弥生時代の石器、須恵器、土器類、瓦器が出土。
上原東遺跡 UHE00-2	H13.2.5	個人	360.80m ²	専用住宅	調査	原因者	遺構・遺物なし
小塩遺跡 OSO00-2	H13.2.7	個人	約235m ²	専用住宅	調査	原因者	遺構・遺物なし
堀谷遺跡 S1O00-9	H13.2.9	個人	81.88m ²	専用住宅	調査	原因者	遺構・遺物なし
日野鐵音寺遺跡 HKT00-1	H13.2.13 ~3.30	河内長野市	77000.00m ²	汎場整備	確認調査	原因者	中世の土坑、ピットを検出。中世の瓦器、瓦質土器、土師質土器が出土。
三日市遺跡 M1C00-6	H13.2.22	個人	181.80m ²	兼用住宅	調査	原因者	遺構・遺物なし
高向遺跡 TKO00-3	H13.2.27	個人	141.00m ²	農業用倉庫	調査	原因者	遺構・遺物なし
東高野街道	H13.3.23	大阪府富田林土木事務所	780.00m ²	道路	立会		遺構・遺物なし
三日市北遺跡 M1N00-5	H13.3.27 ~4.17	個人	789.45m ²	専用住宅	調査	原因者	弥生時代の溝、柱穴、近世の暗渠機敷を検出。弥生土器、瓦器、陶器類が出土。
流谷八幡神社遺跡 NTH01-1	H13.4.10	八幡神社新築工事建築委員会	536.38m ²	神社	調査	原因者	遺構・遺物なし

遺跡名 調査名	調査期間	申請者	申請面積	用途	種別	区分	備考
三日市北遺跡・ 三日市南跡 M I N01-2	H13.4.20 ～7.17	河内長野市	18000.00m ²	駅前市街地 再開発	調査	原因者	弥生時代の堅穴住居、柱穴、溝、土坑、近世の建物、構を検出。弥生土器、土器部、須恵器、近世の陶磁器、瓦、金属類が出土。
柴町遺跡	H13.5.7	個人	85.19m ²	専用住宅	調査	原因者	遺構・遺物なし
市町東遺跡 I C E01-1	H13.5.11	個人	274.35m ²	専用住宅	調査	原因者	遺構・遺物なし
高野街道 K Y R01-1	H13.5.11 ～7.25	大阪府富田林木事務所	約780m ²	道路	立会		遺構・遺物なし
柴町遺跡 S K C01-1	H13.5.14 ～5.24	個人	499.41m ²	専用住宅	調査	国庫	本書掲載
三日市北遺跡 M I C01-1	H13.5.15 ～5.30	個人	485.59m ²	専用住宅	調査	国庫	本書掲載
西代藩陣屋跡 N D H01-1	H13.5.28	個人	144.27m ²	専用住宅	調査	国庫	遺構・遺物なし
三日市北遺跡 M I N01-2	H13.6.25 ～6.27	河内長野市	2100.00m ²	道路	調査	原因者	遺構・遺物なし
三日市北遺跡・ 三日市南跡 M I N01-5	H13.6.29 ～10.16	河内長野市	1.6ha	駅前市街地 再開発	調査	原因者	弥生時代の堅穴住居、柱穴、溝、土坑、近世の建物、構を検出。弥生土器、土器部、須恵器、近世の陶磁器、瓦が出土。
三日市遺跡	H13.7.26	個人	233.00m ²	専用住宅	立会		遺構・遺物なし
天野山金剛寺遺跡 K G T01-2	H13.8.6 ～8.31	大阪府警察本部	280.00m ²	駐在所	調査	原因者	拂列、ピット、土坑を検出。中世の瓦、土師質土器、近世の陶磁器が出土。
塙谷遺跡 S I O01-2	H13.8.24	個人	181.34m ²	専用住宅	調査	原因者	遺構・遺物なし
三日市北遺跡 M I N01-7	H13.8.24	個人	100.52m ²	専用住宅	調査	原因者	遺構・遺物なし
勝所蕃代官所跡 Z Z H01-1	H13.8.24	個人	161.38m ²	専用住宅	調査	原因者	遺構・遺物なし
鳥帽子城跡 E B S01-1	H13.8.24	民間事業者	1923.58m ²	分譲住宅	調査	原因者	遺構・遺物なし
勝所藩代官所跡 Z Z H01-2	H13.8.24	個人	299.83m ²	専用住宅	調査	原因者	遺構・遺物なし
天野山金剛寺遺跡 K G T01-3	H13.9.14	側摩尼院		防災施設			遺構・遺物なし
塙町東遺跡 K N E01-1	H13.9.20	個人	233.08m ²	専用住宅	調査	原因者	遺構・遺物なし
三日市南跡 M I C01-2	H13.9.21 ～9.25	個人	234.31m ²	専用住宅	調査	国庫	本書掲載
市町西遺跡 I C W01-1	H13.9.28	自治会	179.85m ²	集合所	調査	原因者	遺構・遺物なし
三日市北遺跡・ 三日市南跡 M I N01-6	H13.10.9 ～11.2	個人	340.00m ²	専用住宅	調査	国庫	本書掲載
高向遺跡 T K O01-1	H13.10.16 ～11.1	個人	2090.00m ²	店舗	調査	原因者	ピット、溝を検出。中世の瓦器、須恵器、土師質土器、サヌカイト片が出土。
高向遺跡 T K O01-2	H13.11.8	社会福祉法人 生登福 社会	3132.00m ²	特別養護老人 介護施設	調査	原因者	古墳時代の溝、ピットを検出。縄文時代のサヌカイト剣片、古墳時代の須恵器、鍾乳時代の瓦器が出土。
向野遺跡 M K N01-1	H13.12.5	個人	181.65m ²	専用住宅	立会		遺構・遺物なし
市町東遺跡 I C E01-2	H13.12.5	個人	121.40m ²	専用住宅	調査	原因者	遺構・遺物なし
塙谷遺跡 S I O01-3	H13.12.5	国立大阪南病院	59.13m ²	防火水槽	調査	原因者	遺構・遺物なし
野作遺跡 N S K01-1	H13.12.10	個人	197.69m ²	専用住宅	調査	原因者	遺構・遺物なし
喜多町遺跡 K T C01-2	H13.12.12	民間事業者	827.54m ²	店舗	調査	原因者	遺構・遺物なし
西代藩陣屋跡 N D H01-2	H13.12.18	個人	164.85m ²	専用住宅	調査	原因者	遺構・遺物なし



第1図 河内長野市遺跡分布図 (1/40000)

番号	文化財名称	種類	時代	番号	文化財名称	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町以降	(73)	葛城第18綱塚	塚塼	平安以降
2	河合寺遺跡	社寺	平安以降	(74)	葛城第19綱塚	塚塼	平安以降
3	觀心寺遺跡	社寺	平安以降	(75)	尾高塚	塚塼	中世
4	大師山古墳	古墳	古墳(前期)	(76)	大沢塚	塚塼	中世
5	大師山南古墳	古墳?	古墳(後期)・平安	(77)	三國山経塼	塚塼	平安以降
6	大師山遺跡	集落・生産	弥生(後期)・平安	(78)	光龍寺遺跡	社寺	中世以降
7	奥津寺遺跡	社寺	中世以降	(79)	猿子城跡	城館	中世
8	鳥居形八幡神社遺跡	社寺	室町以降	80	井淵神社遺跡	社寺	中世以降
9	啄木穴古墳	古墳・墳墓	古墳(後期)・近世	(81)	川上神社遺跡	社寺	中世以降
10	長池遺跡群生産	生産	平安～近世	82	千代田神社遺跡	社寺	中世以降
11	小山田1号古墓	墳墓	奈良	83	向野遺跡	集落・生産	編文・平安～近世
12	小山田2号古墓	墳墓	奈良	84	古野町遺跡	散布地	中世
13	延命寺遺跡	社寺	平安以降	85	上原北遺跡	集落	中世
14	天野山金剛寺遺跡	寺社・墳墓	平安以降	86	大日寺遺跡	古墳・古墳・墳墓	弥生～中世
15	日野觀音寺遺跡	寺社・生産	平安～中世	87	高向南遺跡	散布地	編文
16	地藏寺遺跡	寺社	中世以降	88	小庵遺跡	集落	編文・奈良
(17)	岩湧寺遺跡	寺社	平安以降	89	加賀遺跡	集落	古墳(後期)
18	五ノ木古墳	古墳	古墳(後期)	90	尾崎遺跡	集落	古墳～中世
19	高向遺跡	集落	旧石器～中世	91	ジョウノマエ遺跡	城館?	中世
20	鳥帽子形城跡	城館・生産	中世～近世	92	仁王山城跡	城館	中世
21	喜多町遺跡	集落	編文・古墳～中世	93	タコラ城跡	城館	中世
22	鳥帽子形古墳	古墳	古墳(後期)	94	岩立城跡	城館	中世
23	未庄遺跡	生産	中世	95	上原近石瓦窯	生産	近世
24	庵谷遺跡	散布地	編文～近世	96	市町東遺跡	散布地	弥生・中世
25	虎谷八幡神社	社寺	平安以降	97	上田町窯跡	生産	近世
26	鷺井瀬遺跡	散布地	中世	98	尾崎北遺跡	集落	古墳～中世
27	鷺井瀬北遺跡	散布地	中世	99	西之山町遺跡	散布地	中世
28	天見駒北方遺跡	散布地	中世	100	野間里遺跡	集落	平安
29	千早町駒北遺跡	社寺	中世	101	鳴尾遺跡	散布地	中世
30	岩瀬薬師寺遺跡	寺社	中世以降	102	上田町遺跡	散布地	古墳・中世
31	南木遺跡	散布地	中世	103	上原中遺跡	散布地	古墳・中世
32	伝「仲哀廟」古墳	古墳?	古墳?	104	小野町遺跡	墳墓	中世
(33)	村堂廣業堂跡	寺社	近世	(105)	葛城第17綱塼	塚塼	平安以降
(34)	庵堀跡	墳墓	近世	106	高岡窓跡	生産	中世以降
(35)	中村阿弥陀堂跡	寺社	近世	107	野作遺跡	生産	中世
(36)	東の村観音堂跡	寺社	近世	108	寺元遺跡	集落・社寺	奈良・中世
(37)	西の村觀音堂跡	寺社	近世	(109)	船原遺跡	散布地	中世
38	清水阿弥陀堂跡	寺社	近世	110	法簡院古墳跡	古墳	古墳
39	唯馳弥勒堂跡	寺社	近世	111	上原山古墳跡	古墳	古墳
(40)	宮の下内墓	墳墓	古墳	112	西浦遺跡	集落	古墳・中世・近世
41	宮山古墳	古墳	古墳	113	地福寺跡	社寺	近世
42	宮山遺跡	集落	編文・奈良	114	宮の下遺跡	集落	平安・中世
43	西代蘆陣屋跡	散布地・城跡	飛鳥～奈良、江戸	115	柴町遺跡	散布地	弥生・古墳・中世
44	上原町墓地	墳墓	近世	116	鶴町遺跡	散布地	中世
45	懇持寺跡	散布地・社寺	編文・奈良・繩文	(117)	大井遺跡	散布地	編文・中世
46	栗山遺跡	祭祀	中世～近世	118	鶴町北遺跡	集落	弥生・中世・近世
47	寺ヶ曲遺跡	散布地	編文	119	市町西遺跡	集落	編文・中世
48	上原遺跡	散布地	旧石器～近世	120	采町南遺跡	集落	中世
49	住吉神社遺跡	寺社	近世以降	121	采町東遺跡	散布地	弥生・中世
50	高向神社遺跡	社寺	中世以降	122	橋町東遺跡	散布地	弥生
51	青草が原神社遺跡	社寺	中世以降	123	沙の宮町南遺跡	散布地	弥生・奈良
52	勝磨代官所跡	城館	江戸	124	沙の宮町遺跡	散布地	中世
53	双子古墳跡	古墳	古墳	125	砂丘近世墓	墳墓	近世
54	糞子尻遺跡	散布地・社寺	編文～近世	126	増福寺跡	社寺	中世以降
55	河合寺城跡	城館	中世	127	三味城遺跡	墳墓・城跡	中世・近世
56	三日市遺跡	集落・古墳地	石器器～近世	128	松林寺遺跡	社寺	近世以降
57	日の谷城跡	城館	中世	129	昭和町遺跡	散布地	中世
58	高木遺跡	散布地	編文	*130	東高野街	街道	平安以降
59	沙の山城跡	城館	中世	*131	西高野街	街道	平安以降
60	峰山城跡	城館	中世	*132	高野街	街道	平安以降
61	祐荷山城跡	城館	中世	133	上原東遺跡	散布地	弥生・中世・近世
62	国見城跡	城館	中世	134	地蔵寺東方遺跡	墳墓	編文
63	度藏城跡	城館	中世	135	本多町北遺跡	散布地	中世
64	塵現城跡	城館	中世	136	下里町遺跡	散布地	古墳・中世
(65)	天神社遺跡	寺社	中世以降	137	あかし台遺跡	散布地	近世
(66)	葛城第15綱塼	塚塼	平安以降	138	若瀬北遺跡	集落	中世
67	加賀田神社遺跡	寺社	中世以降	139	岩瀬近世墓地	墳墓	近世
68	庚申堂遺跡	寺社	近世以降	140	附坐堂町東遺跡	散布地・施設	編文・中世・近世
69	石弘城跡	城館	中世	141	三日市北遺跡	集落	弥生～中世
70	佐立城跡	城館	中世	142	三日市宿跡	宿跡に伴う街並	中世～近世
71	旗尾城跡	城館	中世	143	上田町宿跡	宿跡	中世～近世
72	葛城第16綱塼	塚塼	平安以降	144	海尾遺跡	散布地	編文・古代・中世

() は地図範囲外 * は街道につき地図上にプロットせず

第3表 河内長野市遺跡地名表

第2章 調査の結果

第1節 栄町遺跡（SKC01-1）

1 概略



第2図 調査区位置図 (1/5000)

栄町遺跡は、大阪府河内長野市栄町に位置する。標高は約111mを測る。当遺跡は、石川左岸の河岸段丘上に位置する。この段丘は当遺跡より南西約2.5kmの高向付近から2段の段丘を形成し、標高が128～150mの中位段丘と109～122mの低位段丘に分けられる。当遺跡は石川左岸の低位段丘上に位置する。

当遺跡はこれまで小規模な発掘調査しか行われておらず、出土した遺物から弥生・中世の遺跡であることは認識されていたが、遺構があまり検出されておらず、性格など不明な点が多くかった。

しかし、周辺の調査から、おぼろげながら当遺跡の様相を垣間見ることができる。北西200mの錦町北遺跡では、中世の石組み遺構や近世の井戸・石組み遺構・溝などの遺構が検出され、弥生中期の土器も確認されている。^(註1)また、南西700mの栄町南遺跡では、掘立柱建物2棟のほか土坑などを検出した。明確な時期は不明だが、おおよそ12～13世紀に相当するものと考えられている。以上のような調査から当調査区でも、弥生・中世～近世にかけての遺構の検出が想定された。

本次調査は専用住宅の建築に先立ち実施した。調査区は建物の基礎工事の切土で影響を受ける範囲について設定した。調査面積は108m²である。

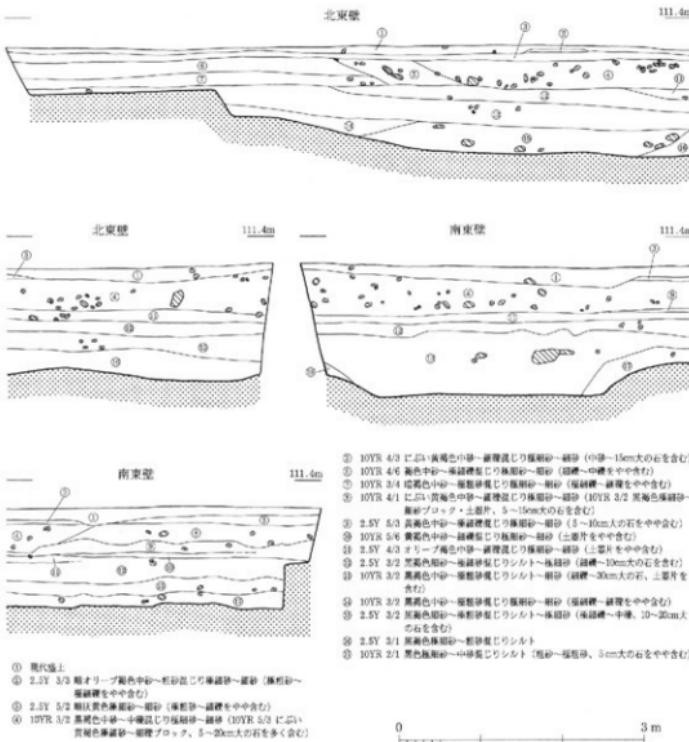
(註1) 河内長野市遺跡調査会 1996年3月 『河内長野市遺跡調査会報告 錦町北遺跡』

2 調査の方法

調査は、建設予定地内に 12×9 mの調査区を設定し、まず機械による掘削を行った。現地表面から約0.2m掘削したところで遺物の包含層を検出したため、その後は人力による掘削を行った。しかし掘削の結果、明確な遺構は検出しなかった。そのため調査区の一部を深く掘削したところ、黒色のシルト層を確認したため、幅1mのトレーナーを調査区の北辺と東辺に設定し、再度掘削を行った。その結果、およそ西から東に向かって落ち込む遺構を確認した。

3 層序（第3図）

層序は大きく6層に分けられる。現代盛土①、水田耕土②・③、その下層の礫を含む層④～⑧、黄褐色極細砂～細砂層⑨・⑩、黒色シルト層⑪～⑯、地山層である。現代盛土は調査区全域で確認されるが、その下層の水田耕土は、この盛土層によって削られており、



第3図 調査区断面実測図 (1/60)

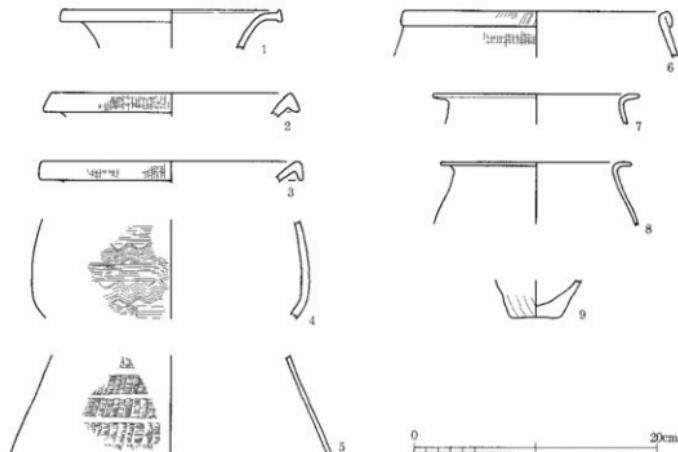
部分的に確認できた。④～⑧層については、特に④・⑤層に礫が多く含まれている。この層は、⑥～⑨層を切っていることから、人為的に掘削され、礫を廃棄した土坑であると考えられる。そして、これらの下層の黄褐色層は部分的に上層により削られているが、調査区全域で確認された。その下層には、黒色シルト層が薄い部分では0.2m、厚い部分では1m以上堆積している。この層からは、すべて破片であるが弥生土器が出土し、また10～20cm大の石が多く含まれていた。

4 遺構と遺物（第4図、図版1・5）

今回の調査は、礫を含む層④～⑧から土器片が若干出土したため、まず黄褐色層上面で遺構の検出を行った。しかし、瓦器や須恵器、弥生土器の細片は出土したが、明確な遺構は検出できなかった。

そして、前述のように部分的に掘削したところ、黒色シルト層が堆積している落ち込みが確認された。時間的制約があり平面での検出は行えなかつたが、断面観察によりこの落ち込みの規模は幅約3m以上、深さ1mと推測される。調査区の設定上、この落ち込みの東側は確認できたが、西側は不明である。したがって、このまま西に落ち込む地形になるのか、西側に肩があり、溝状の遺構になるかは不明である。

埋土は土壤化した黒褐色シルトが主体で、10～20cm大の石を多く含む。当調査区の地山層は、東側は黄褐色のシルト層だが、西側に行くほど礫層を含むようになる。しかし、地山層にはこのような大きな石は含まないことや、埋土がこのような石を運ぶ洪水の堆積ではないことから、これらの石は自然に堆積したものではなく、人為的に投棄されたものと



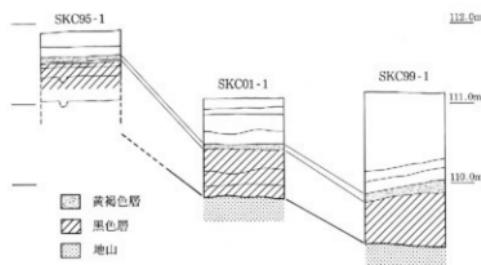
第4図 包含層出土遺物実測図

考えられる。

遺物は弥生土器の壺(1~5)・鉢(6)・甕(7~9)、サヌカイトが出土した。弥生土器は、すべて畿内第IIIから第IV様式であることから、この落ち込みは弥生時代中期頃に埋没したものと推定される。

5 まとめ

今回の調査では、中世や弥生時代の遺構の検出が期待された。当遺跡の過去の調査では、当初遺構検出を行った黄褐色層と思われる層より上層から中世の遺物・遺構が検出されている。しかし、



第5図 土層断面柱状図

当調査区の黄褐色層上面では、瓦器片は確認できたが、明確な中世以降の遺構は検出できなかった。そして、その下層で弥生時代中期頃の落ち込みを検出した。

中世以降の様相については不明な点を残したが、弥生時代の落ち込みを検出した今回の調査について、過去の調査を含めて整理したい。当遺跡の過去の調査区はすべて狭小で遺跡全体としての様子を掴むには不明な点が多いが、どの調査区でも層厚が0.6m以上の黒色土層が確認されている。当調査区から北東約50mの地点にある99-1調査区では、遺物が出土しなかったが、おそらく今回確認できた黒色シルト層と同じである黒色土層が確認されている。また、当調査区から北約25mの地点にある95-1調査区からは、弥生時代中期(畿内第III~IV様式)の土器が出土しており、今回の調査区と合致する。

以上のことから、層序を比較すると、95-1調査区の黒色土層上面の標高が約111.5m(下面は不明)、当調査区の上面が約110.4m、下面が約109.8m(最下層は109.4m)、99-1調査区が上面約109.8m、下面が約109.2mを測る。このことから、近接した調査区ではあるが、層序の変化が大きいことが分かる。また、当調査区周辺は、南西から北東に向かって緩やかに傾斜する地形と石川に向かう北西から南東方向への傾斜が見られる地点である。そのことからこの層序の変化も、基本的には自然地形によるものと考えられるが、黒色シルト層が0.6mあることから、遺跡全域に広がる包含層であるよりも、局地的にある落ち込みの埋上である可能性が高い。したがって、今回確認した落ち込みも、大きく落ち込む地形の一部分を確認したと考えることができる。

今回の調査では、面的に遺跡の性格を示す成果は得られなかった。また、地形的にも不明な点が多いため、今後の調査に期待したい。

(福田)

第2節 三日市遺跡（M I C 0 1 - 1 • 2）

1 概略

三日市遺跡は金剛山地・和泉山脈を水源とし、北西方向に流れる大見川右岸の中位段丘上に位置する。遺跡は旧石器時代から江戸時代にわたり、集落、古墳群、寺院などから構成される複合遺跡である。その理由の一つとして、地形的に天見川に向かう谷の入口に所在し、古来より交通の要衝となっていることが挙げられる。特に古墳群は「三日市古墳群」として位置付けることができ、古墳時代中期から後期にかけての群集墳を形成している。



第6図 調査区位置図 (1/5000)

本次調査区は中片添町に所在し、標高約135mをはかる。調査は専用住宅の建築に伴い実施した。

2 遺構

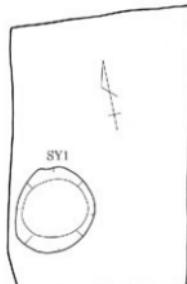
調査区は2カ所設定した。M I C 0 1 - 1 調査区は調査地の西側に設け、2層の遺構面を検出した。その結果、上層遺構面では窓状遺構1基、下層遺構面では落ち込みを検出した。特に、落ち込みからは古墳時代後期の形象埴輪、円筒埴輪、須恵器器台が出土した。

M I C 0 1 - 2 調査区は調査地の東側に設け、遺構はピット数基を検出した。

以下、調査区毎に報告する。

• M I C 0 1 - 1 調査区（第7図、図版2）

調査区は2.5m×4mの規模で設定した。基本層序は耕土(層厚0.3m)、7.5YR4/6褐色疊混じり細砂(同0.3m)、10YR3/3暗褐色疊混じり極細砂(同0.3m)、10YR2/3黒褐色疊混じりシルト(同0.3m)で、地山は10YR5/6黄褐色疊である。上層遺構面は10YR2/3黒褐色疊混じりシルト層上である。



第7図 M I C 0 1 - 1 調査区上層遺構配置図 (1/60)

上層遺構

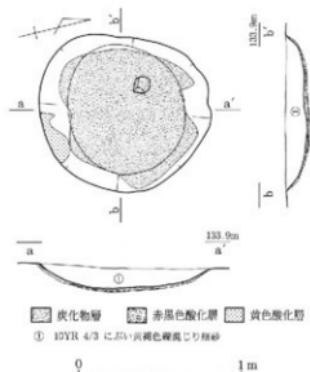
(1) 窯状遺構

〔S Y 1〕(第8図、図版2)

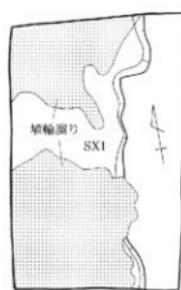
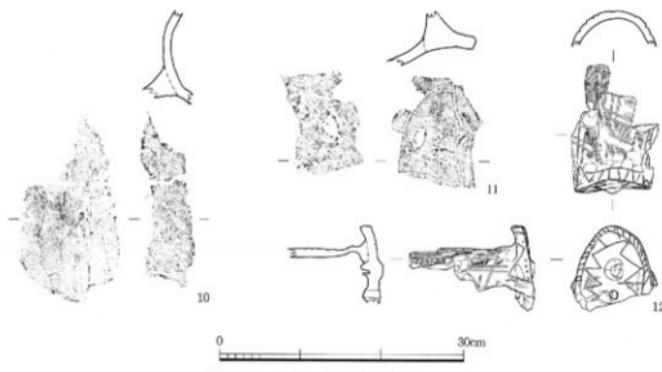
S Y 1は調査区南西部に位置する。平面形は歪な梢円形を呈する。遺構の規模は、長径1.06m、短径0.97m、深さ0.14mを測る。窯体は全体的に赤色酸化しており、窯体の上部は黄色酸化していた。さらに窯体の底部を中心に樹木炭化物が堆積しているのが確認できた。

遺物は、須恵器が出土したが、層序より遺構の時期は中世と考えられる。

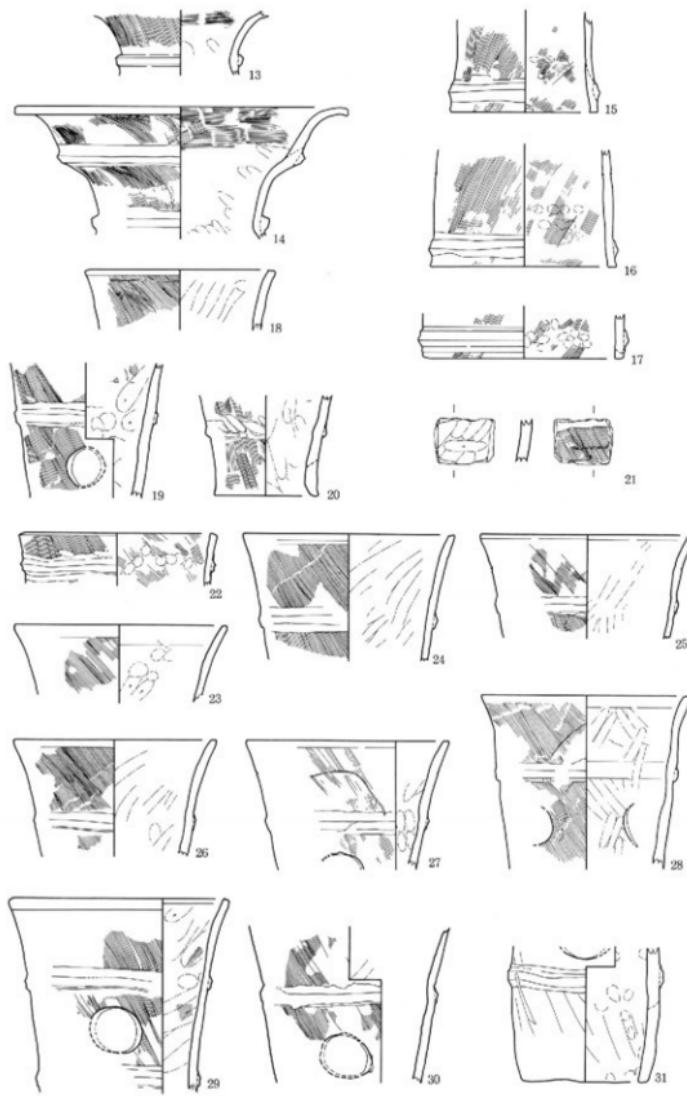
遺構が生産した生産物については、その生産目的を窺う遺物や痕跡は確認できなかった。



第8図 S Y 1 遺構実測図 (1/30)

第9図 M I C O I - 1 調査区
下層 遺構配図 (1/60)

第10図 S X 1 出土遺物実測図 (1)



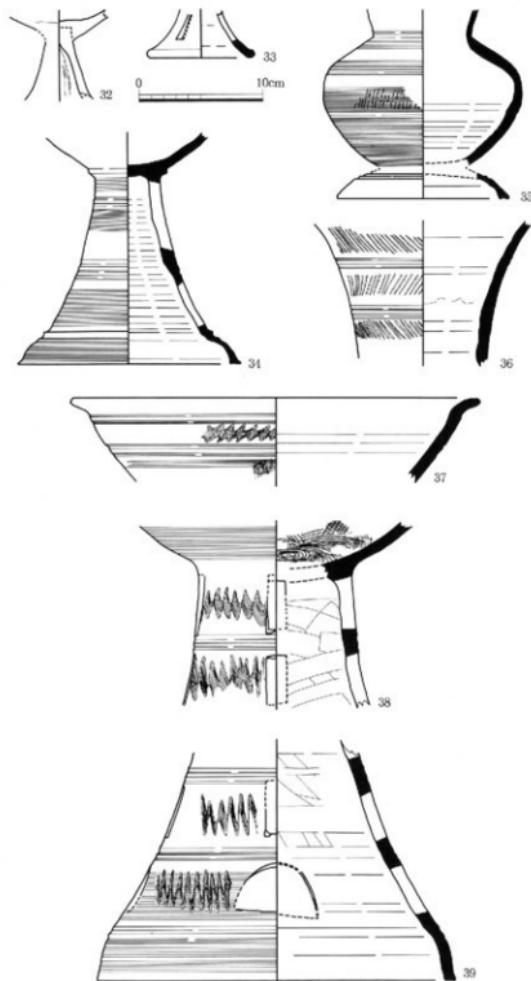
第11図 S X 1 出土遺物実測図 (2)

下層遺構

(1) 落ち込み

[S X 1] (第9~12図、図版6)

S X 1は調査区西側に位置する。遺構の南側、北側、西側は、調査区外におよぶためその詳細な規模などは不明であるが、検出した東端の検出状況と遺物の出土状況から凡そ北



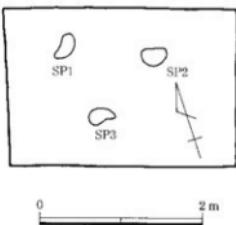
第12図 S X 1 出土遺物実測図 (3)

東軸であることが考えられる。遺構の埋土は、その上層が7.5YR4/4褐色疊混じりシルトによって切られているが、10YR2/3黒褐色疊混じりシルトが該当する。層の上部では須恵器台が細く破れて出土し、層の下部では埴輪があたかも投棄されて飛散したような状況で落ち込みの全体に渡り出土した。

遺物は、形象埴輪である家形埴輪(12)・盾形埴輪(10・11)・人物埴輪、朝顔形埴輪(13・14)、形象埴輪の下部(15~17)、円筒埴輪(18~31)、土師器の高环(32)、須恵器の高环(33)・脚付長頸壺(34)・台付長頸壺(35)・広口壺(36)・器台(37~39)が出土した。埴輪は同一層から出土しており、その出土状況から埋没時期には一括性が認められる。遺物は細片のため(34)はすかし位置は推定できたが、形状は特定できず、図化していない。

• M I C01-2 調査区

調査区は3m×2.2mの規模で設定した。基本層序は表土(層厚0.2m)で、地山は10YR5/6黄褐色疊混じりシルトである。検出した遺構面は住宅の基礎深度が遺構面に到達しないため、平面形のみの記録を行った。なお遺物は耕土から埴輪、土師質土器、瓦器塊が出土した。



(1) ピット

[S P 1] (第13図)

S P 1は調査区の北西部に位置する。遺構の平面形は不定形である。遺構の規模は長軸0.35m、短軸0.18mを測る。

遺物は出土しなかった。

[S P 2] (第13図)

S P 2は調査区の北東部に位置する。遺構の平面形は不定形である。遺構の規模は長軸0.3m、短軸0.2mを測る。

遺物は出土しなかった。

[S P 3] (第13図)

S P 3は調査区の中央やや南側に位置する。遺構の平面形は不定形である。遺構の規模は長軸0.35m、短軸0.2mを測る。

遺物は出土しなかった。

(鳥羽)

3 遺物

出土した遺物は、普通円筒埴輪をはじめとして、盾・家型・人物などの形象埴輪や須恵器などである。これらはいずれも S X 1からの出土であり、一括性が高いと考えられる。普通円筒埴輪は川西編年のV期に相当し、既往の調査で出土した三日市古墳群出土埴輪と

同様である。須恵器は6世紀初頭の所産であると考えられる。本稿では紙面の制約のため大量に出土した埴輪について言及することはできないが、出土した埴輪のうち普通円筒埴輪を中心の大まかな傾向を述べていきたい。

普通円筒埴輪は、その口径から大小2つに分類することができる。これらは、同時期の古市古墳群出土の埴輪と比べると中型品(23~31)と小型品(18~22)に位置付けられる。

中型品は口径約26cmを測り、ハケ原体は小型品と比較して細い。また、同様の口径を測るものにはナデを施すものもあり、中型品には少なくとも2系統存在することが推測できる。内面調整はナデが施されている。最下段の突堤は低く、ナデが施されており、底部は板オサエによって調整されている。この中型品の一部(27・28)に「匁」のヘラ記号が確認できる。

小型品は口径約20cmを測り、ハケ原体は中型品と比較して太い。内面調整はナデが施されているものとハケが施されているものの2種類がみられる。最下段の突堤は、いわゆる断続ナデの突堤であり、底部の調整は施されていない。小型品の一部(21)に「×」のヘラ記号が確認できる。

以上、今次調査において出土した埴輪をおおまかに概観した。今回検討した埴輪はほんの一部に過ぎず、大量に出土した今次調査の埴輪を検討するには不十分であり、形象埴輪についても言及することが出来なかった。既往の調査においても大量の普通円筒・形象埴輪が出土しており、これらを含めた総合的な検討が必要であろう。今後の整理結果を含め追って報告する機会を得たい。

なお、上田睦氏(藤井寺市教育委員会)、藤井康司氏(財和歌山県埋蔵文化財センター)には埴輪を実見して頂き、ご指導を得た。記して感謝の意を表したい。 (藤田)

4 まとめ

調査の結果、特にM I C01-1調査区の下層遺構面で検出した古墳時代後期の落ち込みは、三日市遺跡の中で三日市古墳群を構成する古墳の周濠を検出したものと考えられる。現在、三日市古墳群では円墳9基、方墳4基の合計13基の古墳を確認している。埴輪が出土したSX1は調査区が狭小であることから明確なことはわからないが、今後これらの古墳との関係が明らかになることが期待される。

出土した埴輪については、川西編年のV期に相当し、須恵器との共伴から6世紀初頭の頃と考えられる。また、出土した埴輪の器種は、普通円筒埴輪だけではなく多種の形象埴輪も多量に含まれ、本調査区同様、多量の埴輪を出土した三日市3号墳の埴輪(V期)との関連性を視野に入れた上で検討が今後必要である。

また、M I C01-1調査区上層遺構面で検出した窯状遺構はその目的用途が不明であるが、遺構の焼成状況から酸化焰焼成を目的とした遺構であることが考えられる。

(鳥羽)

第3節 三日市北遺跡・三日市宿跡 (MINO1-6)

1 概略

三日市北遺跡は、天見川東側と石見川北側の低位段丘上に位置している。当遺跡は、現在大規模な調査が行われており、弥生時代中期から後期にかけての竪穴住居、近世以降の暗渠や土坑などが確認されている。それに加え、南海高野線を挟んで東側に位置する過去の調査区では、縄文時代中期から後期の遺構、弥生時代中期・古墳時代前期から中期にかけての竪穴住居、中世の掘立柱建物などが検出されている。本次調査は専用住宅の建築に先立ち実施した。調査区は建物の基礎工事の切土で影響を受ける範囲について設定し、調査面積は約100m²であった。



第14図 調査区位置図 (1/5000)

2 調査の方法と層序

調査区は、東西10m×南北5mのトレンチに、西側に12m×2mのトレンチ、南側に2m×12mのトレンチを伸ばした形で設定した。調査区中央部での基本層序は、上層から現代の盛土と考えられるオリーブ褐色極細砂～中砂層(1層)が0.06～0.12m、耕土と考えられる黄褐色極細砂～中砂層(2層)が0.06～0.1m、弥生時代～古墳時代にかけての包含層と考えられる暗オリーブ褐色シルト～中砂層(3層)が0.08～0.12m堆積している。地山層は明黄褐色シルト～極細砂である。層序は調査区内でも異なり、東側では3層が2層により削平され、また2層上層に耕土と考えられる暗灰色シルト～中砂層が堆積している。この層は中央部では1層により削平されている。調査区西側と南側は、1層の下層が地山面となっており2～3層は削られている。このように複雑な層序を呈するのは、地山面までが0.3mと浅く、また各時代の掘削範囲が場所により異なるからと思われる。そのため調査は、現代の盛土と耕土を除去し、暗オリーブ褐色層と地山を検出した面を第1面として、遺構を検出した。その後、暗オリーブ褐色層を除去し完全に地山を検出した面を第2面と

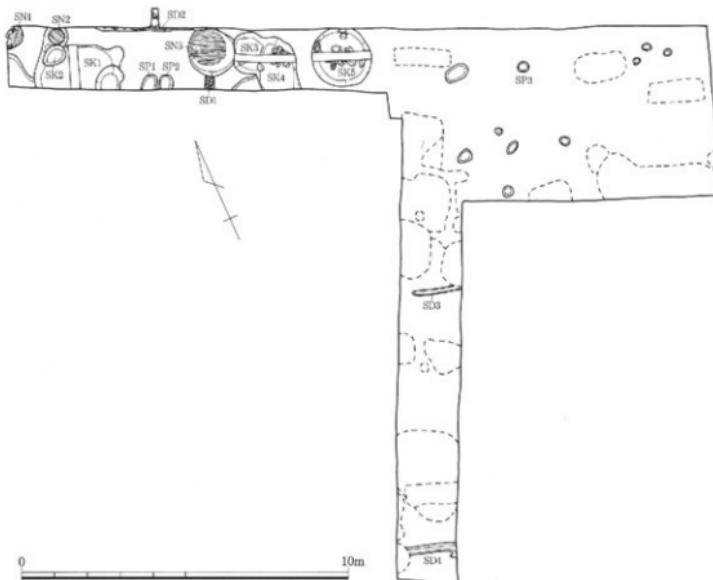
して、調査した。

3 遺構と遺物

第1面（第15図）

第1面では、ピットや土坑、溝を検出した。遺構の多くは調査区北側で検出し、その中でも土坑は調査区北西側で多数検出した。遺構は埋土の違いから大きく3種類あり、現代に近い時期に掘削されたと考えられるもの、SN3やSK5など調査区北西側で検出され灰オーリーブ系の埋土が主体となる遺構、SP3など黄褐色系埋土の遺構に分けられる。これらの埋土の違いは遺構の時期の違いを示すものと考えられるが、黄褐色系の埋土の遺構からは遺物が出土していないため、詳細は不明である。しかし、灰オーリーブ系埋土の遺構は出土遺物から17世紀以降のものと考えられる。

次に、調査区北西側で検出された遺構についてであるが、桶枠を埋設した土坑が注目される。桶枠といっても桶の側板が残っているのは、SN2のみであり、SN1・3は底板のみが検出された。また、同じように桶枠が埋設された可能性のある遺構として、SK3・4・5がある。このような桶枠を持つ土坑は、三日市北遺跡の他の調査でも数多く検出されており、また錦町北遺跡でも検出されている。これら土坑の用途については便所など肥



第15図 第1面遺構配置図 (1/150)

溜としての用途が推測されるが、明確ではない。また、それぞれの遺構の時期については、切り合い関係や遺物から同時期に存在したものではなく、複数時期あると考えられる。以下、それぞれの遺構について説明する。

(1) 溝

[SD 1]

調査区北西側で検出した。南北に伸びる溝で、幅0.3m、深さ0.09mである。溝の中に拳大の石を詰め込んであり、暗渠と考えられる。

遺物は出土しなかった。

[SD 2]

調査区北西端で検出した。東西方向に伸びる溝で、上部は現代排水溝の掘形のため多くは削られているが、幅0.5m程と推測される。SD 1とは違い、10~30cm大の石を組み合わせて、空洞をつくる構造になっている。このような石を用いた暗渠と思われる溝は、当調査区周辺でも多数検出されている。

遺物は出土しなかった。

[SD 3]

調査区中央やや南側で検出した。東西方向に伸びる溝で、幅0.16m、深さ0.03mを測る。耕作溝のように思われるが、周辺に同じような溝が見られないと性格は不明である。

遺物は出土しなかった。

[SD 4]

調査区南端で検出した。東西方向に伸びる溝で、幅0.28m、深さ0.02mを測る。西側がコンクリート製の井戸枠の掘形とつながり、また同じ埋土のため、現代に近い時期に掘削されたものと推測される。

遺物は出土しなかった。

(2) 土坑

[SK 1] (第16図)

調査区北西端で検出した。平面形は、不定形で調査区外に広がるため、正確な規模は不明だが、東西2.68m、南北1.36mを測る。埋土の下層が粗砂～極粗砂であり、流水により埋没したと考えられる。

遺物は、須恵器の壺身(40)、土師質土器の擂鉢、陶磁器などが出土した。

[SK 2]

調査区北西端で検出した。平面形は、やや楕円形で径0.76m、深さ0.1mを測る。SK 1を切って掘削されている。当遺構は埋土などから今回の調査区でも最も新しい時期の遺構と思われる。



第16図 SK 1・3～5出土遺物実測図

遺物は出土しなかった。

〔SK 3〕(第16図、図版7)

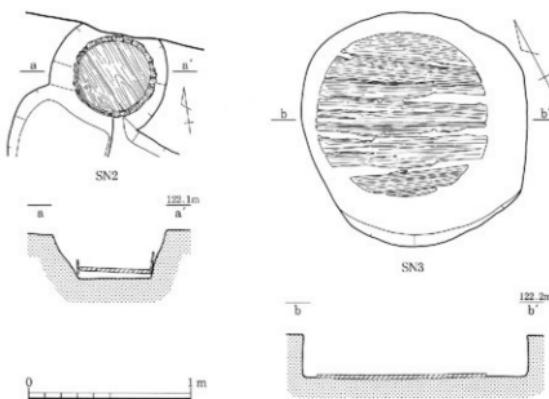
調査区北西側で検出した。平面形は、ほぼ円形と推測され東西1.3m、南北0.9m、深さ0.3mを測る。SK 4により切られているため、それ以前に掘削されたものである。

遺物は、磁器碗(48)、瀬戸美濃の塊(50)が出土した。

〔SK 4〕(第16図、図版7)

調査区北西側で検出した。平面形は、不定形で南側は調査区外に広がるが、東西1.23m、南北1.56m以上、深さ0.41mを測る。前述の通り、切り合ひ関係からSK 3より新しいと考えられる。

遺物は、土師質土器の灯明皿(41・42)、瓦質土器の火鉢(44)、肥前系磁器の皿(46)、磁器碗(47・49)、瀬戸美濃の塊(51)などが出土した。



第17図 S N 2・3 遺構実測図 (1/30)

[SK 5] (第16図、図版3・7)

調査区北側中央部で検出した。平面形は、ほぼ円形で東西1.68m、南北1.82m、深さ0.44mを測る。埋土からは20~30cm大の石や板片、陶磁器が出土した。SK 4のように桶枠が出土していないため明確ではないが、規模や板片の出土からSK 1・4と同様の桶枠を設置していた土坑と推測できる。

遺物は、土師質土器の插鉢や炮烙(43)、磁器皿(45)、堀播鉢(52)が出土した。

(3) 埋桶

[SN 1]

調査区北西端で検出した。内部に桶枠を埋設した土坑である。調査区外へ広がるため正確な規模は不明だが、径1m以上と推測される。

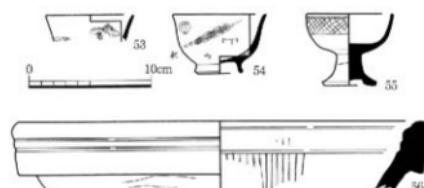
[SN 2] (第17図、図版4)

SK 1を掘削する過程で桶枠が検出されたため、SK 1と別の遺構と認識した。そのため掘形等正確な遺構の規模は不明であるが、径0.5mの桶枠を検出した。

遺物は、須恵器片と陶磁器片が出土したが、細片のため実測できなかった。

[SN 3] (第17・18図、図版5)

調査区北西側で検出した。平面形は、ほぼ円形で径約1.5m、深さ0.32mを測る。底部から桶の底板が出土した。底板は円形で径1.06mである。桶の側板は残存しておらず、底板のみであ



第18図 S N 3 出土遺物実測図

る。埋土は桶枠の範囲とその周りの掘形の2層に分けられ、側板を抜き取った後、埋められたものと考えられる。

遺物は、磁器碗(53・54)・仏飯器(55)、堺鑄鉢(56)が出土した。

(4) ピット

[S P 1]

調査区北西側で検出した。

平面形は、隅丸方形で東西
0.46m、南北0.51m以上、深
さ0.09mを測る。

遺物は出土しなかった。

[S P 2] (第19図)

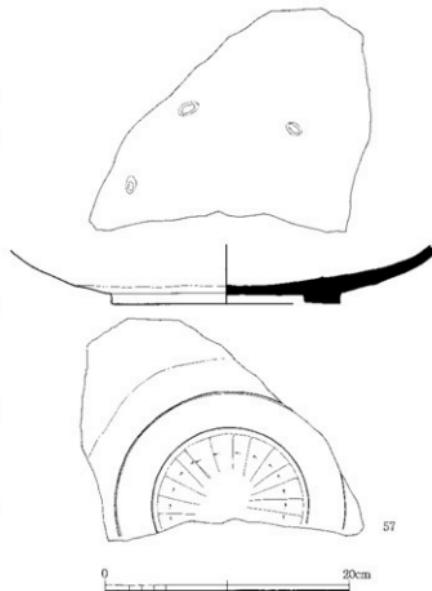
調査区北西側で検出した。
平面形は、隅丸方形で一辺約
0.4m、深さ0.38mを測るが、
南側は調査区外に広がる。

遺物は、陶器の鉢(57)が出土した。

[S P 3]

調査区北側で検出した。平面形は、円形で径約0.3m、
深さ0.11mを測る。

遺物は出土しなかった。



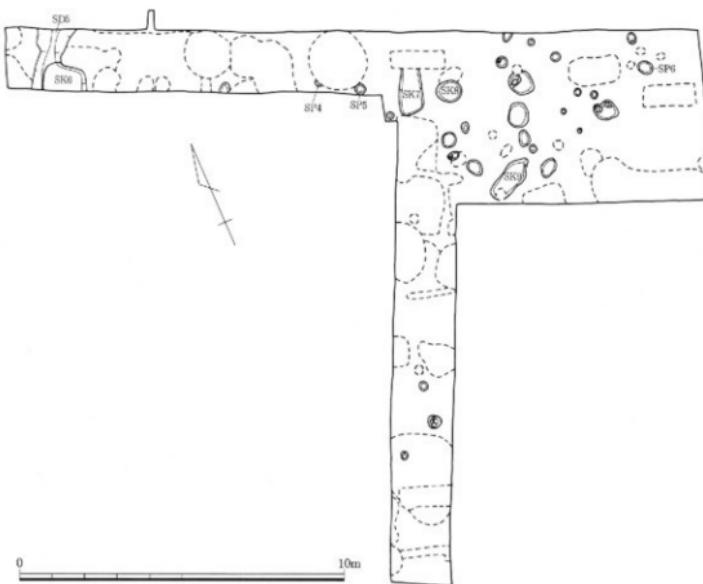
第19図 S P 2 出土遺物実測図

第2面 (第20・21図、図版7)

調査区中央部で検出した暗オリーブ褐色層は、三日市北遺跡の他調査区でも見受けられ、その下面からは弥生時代中期から古墳時代の遺構が検出されている。そのため今回の調査区でも、それらの時期の遺構が検出されるものと期待された。その結果、ピットや土坑が検出できた。遺構の埋土は、S D 5やS P 4などの暗オリーブ褐色系とS K 8などの黒褐色系の大きく2つに分けられる。

出土遺物は、S P 4から出土した弥生土器片と、遺構検出中に出土した縄文土器片だけである。縄文土器は、暗オリーブ褐色層を除去した地山層直上から出土した(58・60・62~64・66・68)と、S K 7上から出土した(59・61・65・67)の11点である。いずれも深鉢で、縄文時代中期末から後期前葉頃と思われる。

第2面で検出した遺構は、遺物の出土が少ないので時期の特定は難しく、埋土の違いに



第20図 第2面遺構配置図 (1/150)

より時期差を示すこともできない。以下、それぞれの遺構について説明する。

(1) 溝 [SD5]

調査区北西端で検出した。南北方向に伸びる溝で、幅は約0.9m、深さ約0.3mを測る。調査区の北側と南側で、SK1・6・SN2に切られているため、どのように伸びる溝かは不明である。埋土は下層に中砂～細砾の砂層が、上層にオリーブ褐色シルト～中砂層が堆積する。

遺物は須恵器片が出土したが、細片のため実測できなかった。

(2) 土坑 [SK6]

調査区北西端で検出した。平面形は、ほぼ円形で東西約1.1mと推測される。しかし、SK1に上部を切られていることや、遺構が調査区南側に広がるため正確な規模は不明である。遺物が出土していないため時期は不明だが、埋土の観察から当遺構が第1面に相当するものである可能性が高い。

〔S K 7〕

調査区北側中央部で検出した。平面形は、隅丸方形で東西0.75m、南北1.4m以上、深さ0.08mを測る。

遺物は、遺構検出中に縄文土器片(59・61・65・67)が出土した。暗オリーブ褐色層から出土し、遺物が移動している可能性があり断定はできないが、当遺構が縄文時代のものである可能性がある。

〔S K 8〕

調査区北側中央部で検出した。平面形は、ほぼ円形で径0.7m、深さ0.18mを測る。埋土は黒褐色シルト～中砂である。

遺物は出土しなかった。

〔S K 9〕

調査区中央部で検出した。平面形は不定形な方形で、主軸をN-70°-Eに持ち、長軸1.57m、短軸0.68m、深さ0.09mを測る。埋土は暗オリーブ褐色シルト～中砂である。

遺物は、土師質土器が出土したが、細片のため実測できなかった。

(3) ピット

〔S P 4〕

調査区北側中央部で検出した。北側をS K 5で切られているが、平面形はほぼ円形で、径0.26m、深さは0.32mを測る。断面から柱痕が確認できた。

遺物は弥生土器片が出土したが、細片のため実測できなかった。

〔S P 5〕

調査区北側中央部で検出した。平面形はほぼ円形で、径0.32mを測る。埋土は暗オリーブ褐色シルト～中砂である。

遺物は弥生土器片が出土したが、細片のため実測できなかった。

〔S P 6〕

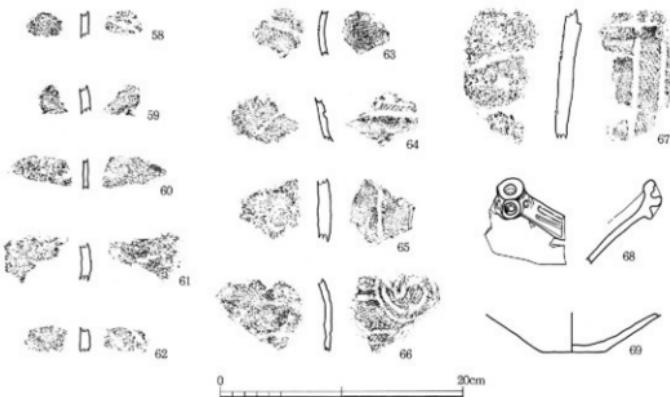
調査区北東端で検出した。平面形は、ほぼ円形で径約0.4m、深さ0.23mを測る。埋土は暗オリーブ褐色シルト～中砂で10cm大の石が詰め込んでいた。

遺物は出土しなかった。

4 まとめ

今回の調査では、縄文土器と近世以降の遺構や遺物を検出した。縄文時代に関しては、中期末～後期前葉にかけての土器は出土したが、遺構に関しては不明であった。しかし、前述したように当調査区の東側に位置する過去の調査では同様の時期の遺構や遺物が検出されており、この頃の遺跡が当調査区の範囲まで広がることが確認された。

また、近世以降に関しては、調査区北西端で多くの遺構を検出した。検出した桶枠を埋



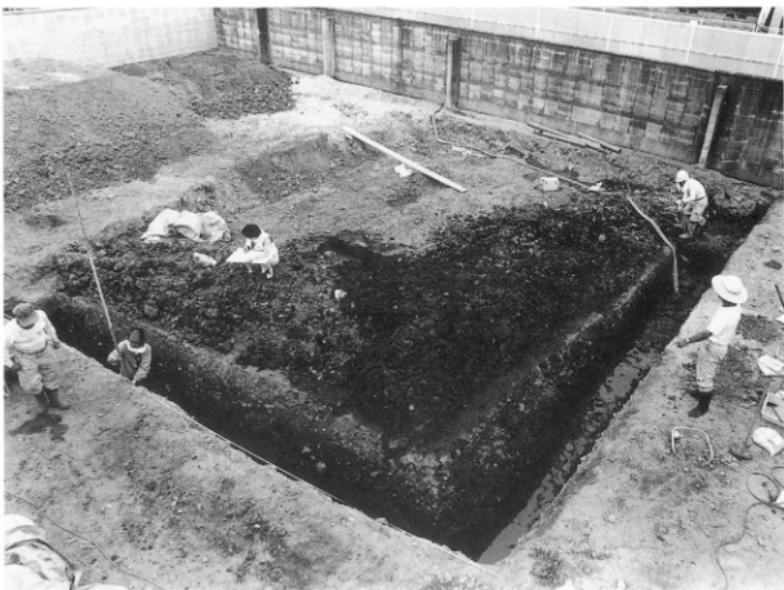
第21図 包含層出土遺物実測図

設した土坑は、ある程度の時期幅を持って継続的につくられたものと考えられるが、建物等の構造については不明であった。また、これらの土坑によって暗渠が切られていることから、暗渠が作られた時期は比較的さかのぼるものと考えられる。このように今回の調査区において近世以降の遺構が多数検出されるのは、高野街道沿いになるためと考えられるが、三日市宿の構造など全体の様相は不明であり、詳細は今後の調査に期待したい。

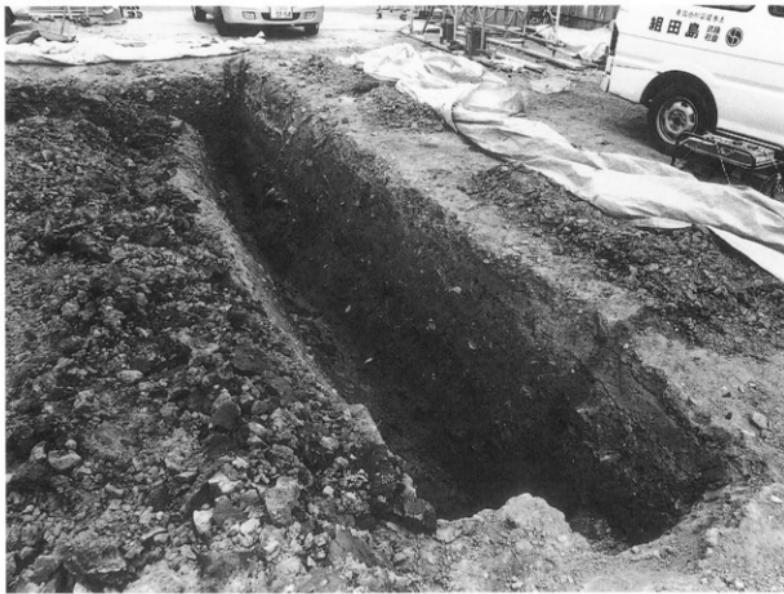
(福田)

(註1) 和泉大樹（千早赤阪村教育委員会）、岡本茂史（財團法人大阪府文化財調査研究センター）両氏に御教示を頂いた。

図版



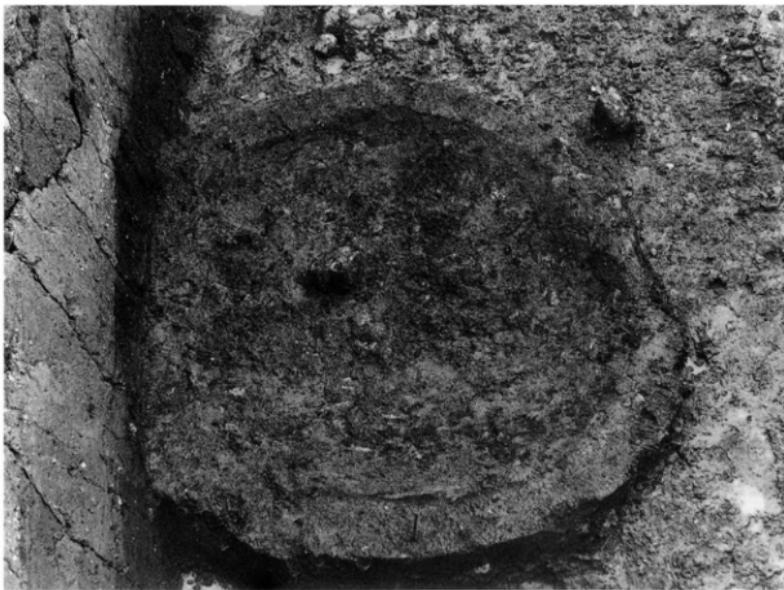
調査区全景（東から）



調査区全景（南から）



調査区全景（南から）



S Y 1

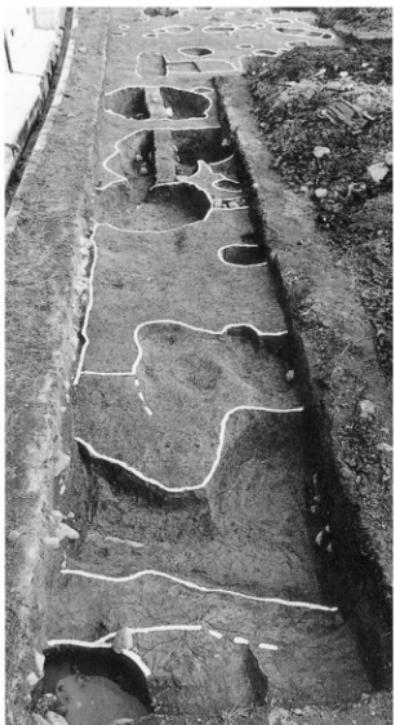


調査区全景（東から）



SK 5

図版 4
三日市北遺跡・三日市宿跡
(M I N 01—6)



調査区全景（西から）



調査区全景（南から）

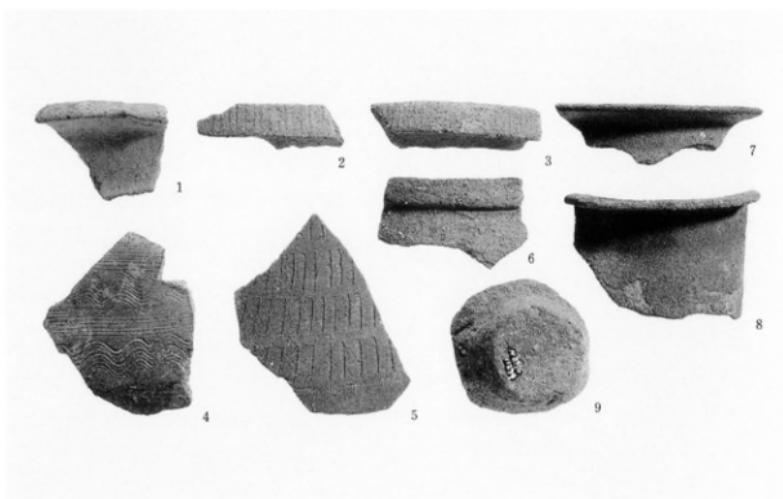


S N 2

図版5 三日市北遺跡・三日市宿跡（MIN 01-6）、栄町遺跡（SKC 01-1）

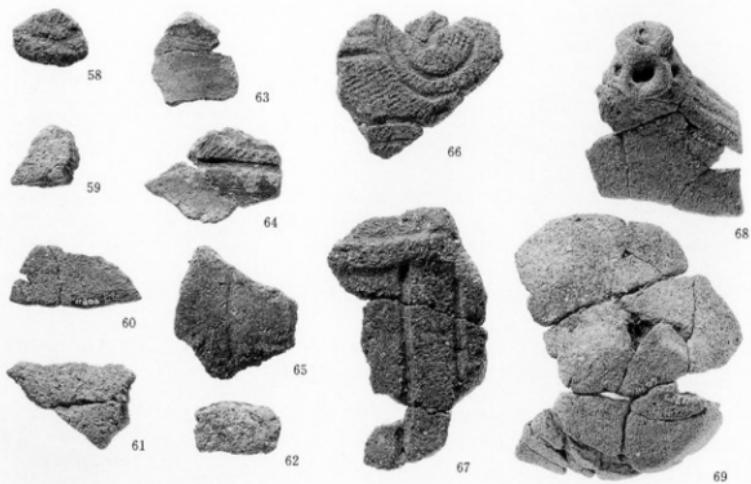
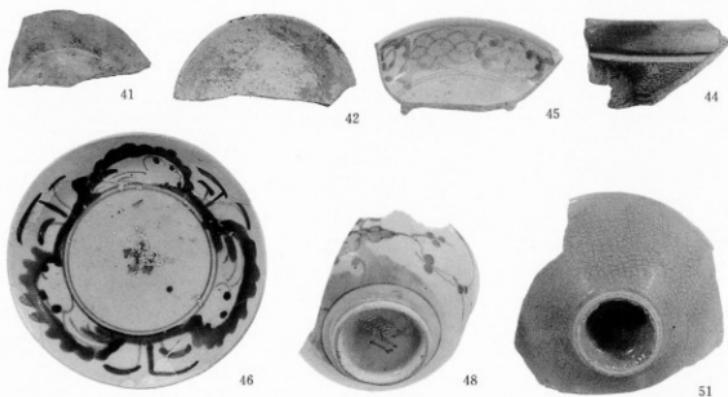


MIN 01-6・SN 3



SKC 01-1・包含層（1～9）





M I N 01—6 · S K 3(48) · S K 4(41·42·44·46·51) · S K 5(45) · 包含層(58~69)

報告書抄録

ふりがな	かわちなかのしまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	河内長野市埋蔵文化財調査報告書
副書名	栄町遺跡、三日市遺跡、三日市北遺跡・三日市宿跡
巻次	四
シリーズ名	河内長野市文化財調査報告書
シリーズ番号	第35輯
編著者名	尾谷雅彦 烏羽正剛 太田宏明 藤田徹也 福田和浩
編集機関	河内長野市教育委員会
所在地	〒586-8501 大阪府河内長野市原町396-3 TEL 0721-53-1111
発行年月日	2002年3月31日

所収遺跡名及び調査名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		古町村					
栄町遺跡 SKC01-1	大阪府河内長野市栄町	27216	府152 河115	34°26'45" 135°34'07"	2001.5.14 2001.5.24	108㎡	専用住宅建築
		27216	府68 河56	34°25'47" 135°34'24"	2001.5.15 2001.5.30	約20㎡	専用住宅建築
三日市遺跡 MIC01-2	大阪府河内長野市中片添町	27216	府68 河56	*	2001.9.21 2001.9.25	約20㎡	専用住宅建築
		27216	府171 河141	34°25'58" 135°34'24"	2001.10.9 2001.11.2	約100㎡	専用住宅建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
栄町遺跡	散在地	弥生 中世	落ち込み	弥生土器・サスカイト 瓦器・須恵器	
三日市遺跡 MIC01-1調査区	集落・古墳地	古墳	落ち込み・墓状遺構	埴輪・須恵器 土器	形象埴輪が多く出土した。
三日市遺跡 MIC01-2調査区	*	*	ピット	埴輪・瓦器	
三日市北遺跡・三日市宿跡	集落	縄文・近世 以降	溝・土坑 埋蔵・ピット	縄文土器・弥生土器 須恵器・陶磁器	

河内長野市文化財調査報告書第35輯
河内長野市埋蔵文化財調査報告書

2002年3月31日発行

発 行 大阪府河内長野市原町396-3

河内長野市教育委員会

0721-53-1111

印 刷 株中島弘文堂印刷所

